うたごよみ

曽於文芸

俳句

末吉俳句会

辛夷咲く背の白雲に同化せず
池田　安起徒

山裾に梅満開の一軒家
北村　ヒロ子

夢を追ひ夢に誘はれ花咲きぬ
児玉　典子

大隅俳句会

春の客目もと口もと母親似
岩重　みどり

鳶の来て舞ふ爛漫の桜かな
大川　満

鍬止めて耳傾ける初蛙
福村　よう子

短歌

末吉短歌会

読みさしの本は閉じよと猫が言ふ
濡れし鼻先われにすり寄せ
長倉　佳津子

きんかんの数より多きひよどりに
食ひ尽くされし後の静寂
大森　澄子

「題字」
末吉文化協会会員
瀬戸口　淳民氏

重ねゆく齢の嵩程せり上がる
二月の海の嘆きを聴かふ
森岡　ちどり

大隅短歌会

野も山も見渡すかぎり雪の舞う
黒き衣の親鸞さまも
安藤　フヂ子

青き色沈め穏しき海に来て
凡をおかずにおにぎりを喰む
川辺　敦子

全部全部自分の為にある時間
時に楽しく時に淋しく
西山　美代子

財部短歌会

見守りの基準示した判決は
認知症介護に不安を残す
児玉　次雄

離壇の傍へに差されし菜の花の
ほのかな香りに心和ぐなり
杉村　リカ

青春が燃えた高校閉校の
67年見つめた門をあとにす
山下　さとし

ゼラニウム新芽のぞかす陽だまりに
君がいのちの咲く日またるる
井上　澄子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

死しんずい　治療ぢゃろごたっ
気長ご行こ
古川　一幹

治療しよも　高齢ち言われっ
歯痒いこっ
桐野　奈世

治療治療で　五体あボロボロ
痩せぼけっ
浜田　一好

治療じゃれば　出張いと御馳走
じっ我慢っ
田代　勝泉

大隅薩摩狂句会

花が咲っ　弁当も咲けば
顔も咲っ
黒木　義士

万歩計い　まだ頑張れよち
下知っされっ
太良木　五徳

首びなろが　元大臣ちゅ
名は遺けっ
神宮司　素水

肩書つが　いけな寄いでん
先き仕切っ
新屋　涼子

読んだ感想、今後取り上げてほしい話題や記事、
あなたの身近で起きた出来事などお寄せください。